




論文審査及び最終試験結果報告書

課 程 博 士	地域社会研究科 地域社会専攻 地域産業研究講座		
学 籍 番 号	16GR107	氏 名	森 菜穂子
審 査 委 員	主 査	戸塚 学	
	副 査	佐々木 純一郎	
	副 査	長南 幸安	
(論文題目)			
寒冷地における学校の温熱・空気環境に関する研究			
(論文審査の要旨)			
<p>論文審査は、主査と副査（2名）により、提出された博士論文の内容について、規模、テーマと内容の整合性、独創性、論旨の一貫性、実験・調査方法の妥当性、成績の処理や記述、文献引用と考察の適切性等についての検討を行った。その結果、博士論文（学術）に相応しい論文であると判断し、公開発表会の後に口頭試問試験を行うことを決定した。（令和2年1月27日）</p> <p>論文審査において、特に評価した点は、以下のとおりである。</p> <p>本論文は、中学校に現役の養護教諭として勤務する森 菜穂子 氏が、近年の気候変動や子供を取り巻く環境の変化により、寒冷地の学校においても夏季は暑熱環境、冬季暖房時は教室の空気環境悪化への対応が必要であると考え、校舎内外複数地点で定点観測できる「暑さ指数・CO₂ モニタリングシステム」と、教室内複数箇所連続計測できる「室内マルチポイント同期計測システム」を開発し、学校現場の環境衛生と児童生徒の健康教育課題を解決するための方策を提案したものである。</p> <p>注目すべき点は、第一に、2つの温熱・空気環境モニタリングシステムを自ら開発し、これまで不可能であった学校の教室・施設の温熱・空気環境（温度・湿度・CO₂ 濃度）をリアルタイムで可視化することに成功したことである。次に、2つのシステムを活用し、寒冷地の学校の夏期および冬期の教室温熱・空気環境をリアルタイムデータとして抽出し、環境衛生の問題点（温熱空気管理）やその課題解決の方策（換気方法等）について、調査データをもとに提案している点も評価できる。さらに、研究は健康教育への応用に発展し、モニタリングシステムを教材として活用したアクティブラーニング・プログラムの開発を行い、その授業実践前後の生徒の反応を検証し、プログラムの有用性を健康と学習の両面から示唆している。</p> <p>教育プロフェッショナルとして自ら抱く教育課題に対し、課題を解決するための調査機器の開発からその有用性の検証、そして課題解決の方策へのアプローチ、さらには生徒の健康教育への応用へと研究が体系的であり、かつ一貫性もみられ博士論文（学術）に相応しい論文であると判断した。</p>			
(最終試験結果の要旨) 最終試験実施日：令和 2年 2月 1日			
<p>公開発表会終了後、口頭試問による最終試験を行った。</p> <p>森 菜穂子 氏には、最初に研究概要や研究の独創性等について報告を行っていただき、その後、主査・副査（2名）より論文に関する質問を行った。</p> <p>口頭試問試験では、本研究で開発した温熱・空気環境モニタリングシステムの学校現場への汎用性や普及の方策、健康教育への展開における課題とその対応の方策、今後の研究の発展性やバックグラウンドについて、明確なビジョンと研究への意欲が伺えた。その結果、主査・副査、全員一致での博士（学術）の学位に相応しい論文であると判断した。</p>			